

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいうえおん みらい			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日 ~ 2026年1月30日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	39人	(回答者数)	36人	
○従業者評価実施期間	2026年1月5日 ~ 2026年1月30日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	5人	(回答者数)	5人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの発達段階に応じた丁寧な個別支援 子どもの特性や成長段階を踏まえた個別支援計画を作成し、無理のないステップで発達を促す支援を行っている。小さな成功体験を積み重ねることで自己肯定感の向上につなげている。	子どもの特性に応じた支援内容の柔軟な調整 一人ひとりの発達状況やその日の様子に合わせて活動内容や関わり方を工夫し、無理なく参加できるよう配慮している。	支援内容のさらなる個別化と専門性の向上 子どもの特性に応じた支援方法をより深く検討し、職員研修や勉強会を通じて支援スキルの向上を図る。
2	専門職が連携したチーム支援体制 児童発達支援管理責任者を中心に、保育士等の職員が連携し、日々情報共有を行いながら支援を実施している。多角的な視点から子どもを支える体制が整っている。	個別支援計画に基づいた支援の実践と見直し 個別支援計画をもとに日々の支援を行い、定期的に振り返りを実施しながら、成長に応じて内容を更新している。	職員間の情報共有と支援の質の統一 定期的なケース検討やミーティングを継続し、支援方法の振り返りと改善を行うことで、支援の質の均一化を図る。
3	保護者との信頼関係を重視した支援 連絡帳や面談等を通じて、保護者とこまめに情報共有を行い、家庭と連携した支援を実践している。保護者の不安や相談にも丁寧に対応している点が強みである。	小さな成功体験を大切にした関わり 「できた」「やってみよう」という気持ちを引き出す声かけや支援を心がけ、自己肯定感の向上につなげている。	安心・安全な療育環境のさらなる整備 設備や環境面の見直しを行い、子どもがより安心して活動できる空間づくりを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員数や経験の差による支援のばらつき 職員それぞれの経験年数や得意分野により、支援方法や関わり方に差が出ることがあり、支援の統一が課題となっている。	職員の経験年数や専門分野の違い 新任職員と経験豊富な職員が混在しており、支援に対する理解やスキルに差が生じやすいことが、支援方法のばらつきにつながっている。	支援内容の共有・ケース検討の充実 定期的なミーティングやケース検討会を行い、支援の振り返りや改善点を話し合うことで、職員間で統一した支援を実践していく。
2	療育プログラムのさらなる体系化の必要性 日々の活動は工夫して実施しているものの、発達段階ごとのプログラムが十分に整理・体系化されていない部分がある。	日々の業務に追われることによる振り返り時間の不足 療育・記録業務等が重なり、支援内容を十分に検討・整理する時間の確保が難しい状況がある。	職員研修・勉強会の定期的な実施 内部研修や外部研修への参加を計画的に行い、支援に関する知識や技術の向上を図ることで、支援の質の均一化を目指す。
3	職員研修の機会が十分とは言えない点 日常業務を優先する中で、外部研修や専門的な学びの機会が限られており、さらなるスキル向上の余地がある。	研修参加の時間や機会の制限 人員配置や業務都合により、外部研修や専門研修への参加が十分に確保できていないことが、専門性向上の妨げとなっている。	保護者支援体制の充実 定期面談の実施や相談時間の確保を行い、家庭と連携した支援をさらに強化していく。